

1 「三陸創造プロジェクト」の考え方

本章では、東日本大震災津波により甚大な被害を受けた三陸地域の復旧、復興はもとより、長期的な視点に立ち、世界に誇る新しい三陸地域の創造を目指す観点から、これを体現するリーディング・プロジェクトとして「三陸創造プロジェクト」を掲げ、推進しようとするものである。

三陸創造プロジェクトの特徴	
横断性	「第4章 復興に向けた原則と具体的取組」に掲げる10分野の取組とともに、目指す姿の実現に向け、これらの分野を越えて横断的に取り組むもの。
創造性	地域における新しい価値の創造を目指しながら、県民に夢と希望をもたらす取組として実現を目指すもの。
独自性	三陸地域の産業や暮らし、歴史・文化、地理的条件などを踏まえ、三陸らしい地域資源や特性などを最大限に生かしていくもの。
長期性	計画期間内での一定の成果を目指しつつも、より長期的な展望を踏まえ、計画期間を越えて取り組んでいく必要のあるもの。永続的に取り組むべきもの。
多様な主体との連携	復興に向けて、県民はもとより、関係団体、企業、NPOや大学等の高等教育機関など、多様な主体と共に連携していくという計画推進の考え方にに基づき、幅広く意見や提言を伺いながら、具体化を進めていくもの。

2 「三陸創造プロジェクト」の内容

本項では、新しい三陸地域の創造を象徴する5つのプロジェクトを掲げる。

なお、本プロジェクトは、「開かれた復興」として、県民や様々な団体等の意見や提言を幅広く伺いながら、地域の新しい価値の創造を目指して進めて行くものであり、プロジェクトの考え方に合った取組がさらに広がり、磨きあげられていくことを想定していることから、プロジェクトが追加されたり、取組項目の変更や追加が行われることもある。

一方、新しい三陸の創造が早期に実現されるよう、早期着手を視野に磨き上げを行う。

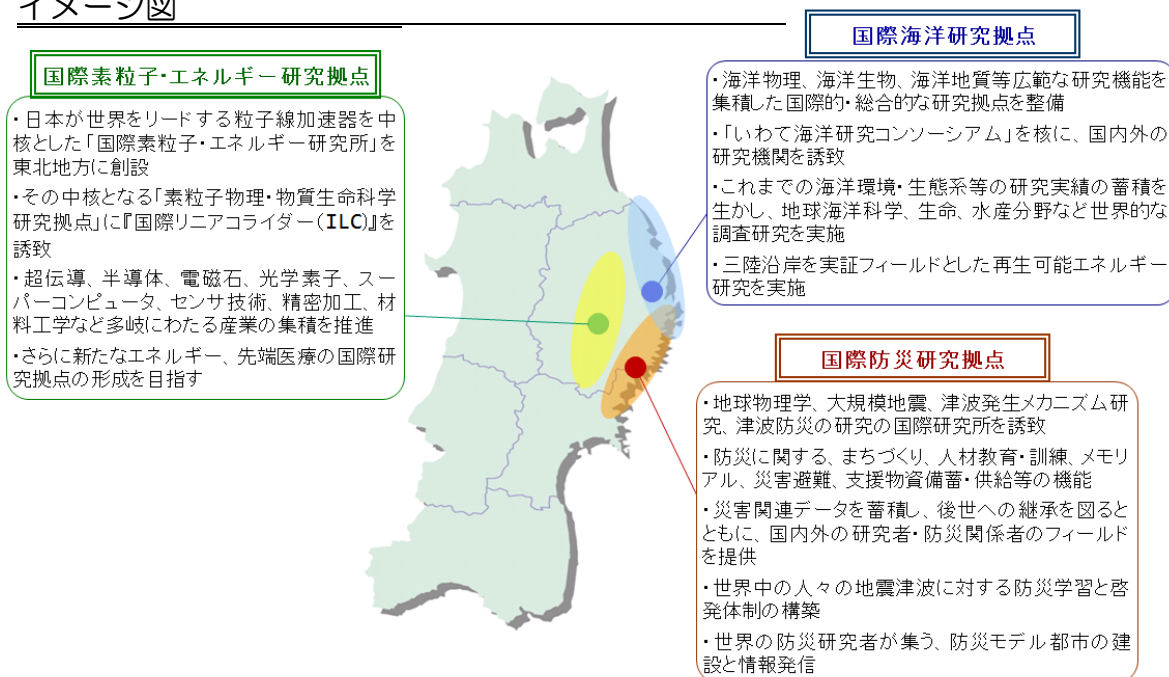
目的

三陸地域における「海」や「地質」などの資源や潜在的な可能性を生かしながら、国際的な研究プロジェクトの実現や、地震・津波の防災研究や海洋研究の国内外研究者等の調査・研究活動の促進とネットワークの形成などを通じて、三陸から世界をリードする国際研究交流拠点を形成する。

展開の方向

- 三陸地域を研究フィールドとした地震、津波に関する調査研究を行う国際的な防災研究拠点の形成と国内外の防災研究ネットワークの構築、研究拠点を中心とした防災に強い地域づくりやまちづくりの実践に係る情報発信と交流促進
- 三陸の「海」の資源を活用した新産業創出等に向けた産学官連携による海洋・水産分野のインキュベーション（起業・育成支援）施設の整備や、海洋環境・生態系、海洋バイオ、海洋再生可能エネルギー等に関する調査研究の推進などを通じた海洋研究拠点の形成
- 国際リニアコライダー（ILC）を核とした国際学術支援エリアの形成や、医療、環境、材料など様々な関連産業の集積を促進
- 大地震・大津波という地球活動の痕跡を生かしたジオパーク構想の推進やこれを契機とした学習・研究フィールドの形成

イメージ図



目的

三陸の地域資源を活用した再生可能エネルギーや省エネルギー技術の導入を促進し、災害にも対応できる自立・分散型のエネルギー供給体制を構築することにより、環境と共生したエコタウンの実現に向けた取組を推進する。

展開の方向

- 太陽光発電設備や地中熱・太陽熱利用型空調設備などについて住宅等への導入を図るとともに、太陽光や洋上風力、地熱など発電プラントの立地を進め、再生可能エネルギーの利活用を促進
- 地域の木材を活用した木造住宅や公共施設等の建設、木質系災害廃棄物を含む木質バイオマス資源等の地域循環システムの構築や地域熱供給のインフラ整備など、本県の豊富なバイオマス資源の有効活用の促進
- 太陽光発電パネルや風力発電装置、LED照明、プラグインハイブリッド自動車・電気自動車等の普及、充電設備等のインフラ整備、燃料電池や蓄電池周辺技術の開発など、再生可能エネルギーや省エネルギー関連設備・技術の導入促進及び関連産業との連携
- 企業や家庭などへの蓄電設備やスマートメーター等の普及、再生可能エネルギー利活用に向けた技術検証などスマートコミュニティ・スマートシティ形成に向けた取組

イメージ図



目 的

東日本大震災津波により犠牲となった方々の故郷への思いや、未曾有の大災害から得た経験を確実に次世代に継承し、その教訓を「防災文化」として将来に生かすことによって、いわての防災力向上など災害に強いまちづくりを推進する。

展開の方向

- 津波資料館（アーカイブセンター）を拠点とした地震・津波災害の記録収集や展示による次世代への確実な経験の継承と地域防災に関する情報発信
- 失われた命への追悼と鎮魂のための津波慰霊碑の建立や、防災拠点としての機能を有するメモリアル公園の整備
- 犠牲者の鎮魂や被災地の夢と希望を託した震災津波の記憶を未来へ語り継ぐイベントの開催や、震災津波体験者による記憶・教訓の伝承
- 大学等と連携し、地域防災の研究や震災津波の伝承・記録、地域の防災リーダー育成などを含めた総合的な防災力の強化
- 震災津波体験を踏まえた「いわての復興教育」の構築をはじめとした学校教育の充実など、防災機能を強化した新しい学舎（まなびや）を拠点とした復興を担う次世代の人材育成

イメージ図



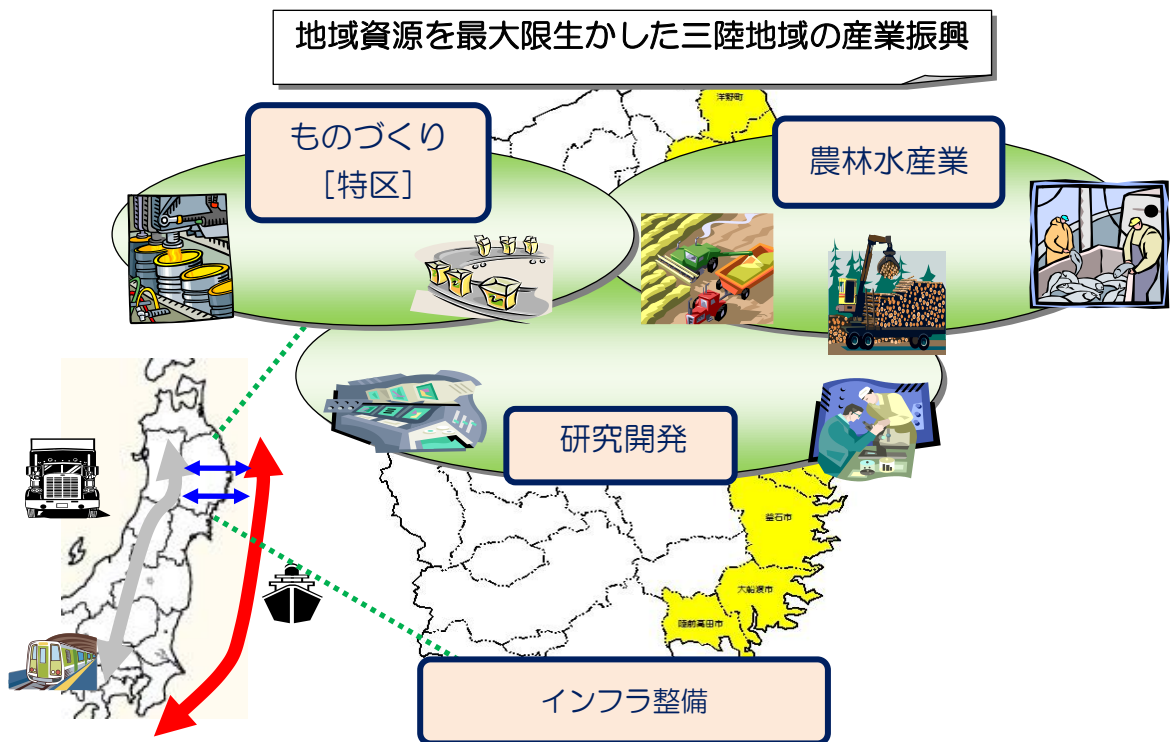
目 的

復興特区制度を活用した総合的施策の推進による内陸地域と沿岸地域が一体となったオール岩手でものづくり産業の振興をはじめ、安全で快適な農山漁村の中で高い生産性と収益性を実現する農林水産業の振興、三陸地域を中心とした本県の地域資源を生かした研究開発の促進による新産業の創出やそれらを支える社会インフラの整備などにより、1次産業から3次産業まで広く三陸地域全体の産業の振興を図る。

展開の方向

- 「ものづくり特区」など総合的な支援策の実施やものづくり人材の育成を通じた、県内一体となったものづくり産業の振興
- 三陸地域を中心とした本県の地域資源を生かした、コバルト合金や多様な農林水産資源を活用したナノカーボン等の新素材関連研究拠点の形成と新産業の創出
- 三陸の「海」の資源を活用した新産業創出等に向けた産学官連携による海洋・水産分野のインキュベーション（起業・育成支援）施設の整備や、海洋環境・生態系、海洋バイオ、海洋再生可能エネルギー等に関する調査研究の推進などを通じた海洋研究拠点の形成（再掲）
- 新たなまちづくり（土地利用等）と連動した、高度な衛生・鮮度管理に対応できる産地魚市場や高い生産性・収益性を実現する加工施設群の集積など、多様で高い付加価値を有する製品が産み出される水産加工拠点の形成
- 農業生産と生活の場が調和した安全で快適な農村空間において、大規模な施設園芸団地を核とした新たな産地の形成や、畜産業・食産業などの地域産業と連携した6次産業化の展開など、地域特性を生かした生産性・収益性の高い農業の実現
- 県内の工務店等による県産木材を活用した復興住宅や公共施設の建設など、地域の森林・林業・木材産業の振興と地域経済の活性化
- 災害に強い確実な物流インフラや住民が孤立しない通信インフラの構築など三陸地域の産業を支える基盤整備

イメージ図



目的

復興活動を契機とした交流人口の拡大や、豊かで多彩な自然環境、地形・地質、岩手の風土に根ざした歴史の中で生まれた文化遺産や伝統芸能などを生かした地域ツーリズム等の展開を通じて、新たな岩手ファンや観光客などとの交流拡大により、三陸地域における一層の観光振興、定住・交流の促進を図る。

展開の方向

- 全国や世界各地から寄せられている様々な復興に向けた支援や参画の広がりや契機とし、人と人、地域と地域といったつながりをさらに広げ、交流人口の拡大による地域コミュニティの活性化を支援
- 平泉の世界遺産の世界遺産登録を契機として、平泉に象徴される浄土思想や自立と共生の理念、人と人、人と自然との共生の考え方に基づく価値の発信を通じて、その考え方に共感する広範な連帯と参画の促進による歴史・文化を生かした地域づくりの推進
- 三陸復興国立公園（仮称）の創設を契機としたエコツーリズム、グリーン・ツーリズム、ジオツーリズムや地域産業との連携のもとでの体験・滞在型観光の展開による地元住民等との交流促進
- 多様な参画による開かれた復興の一環として、芸術家などの長期滞在による創作活動の支援を通じた文化芸術創造拠点の形成や、地域人材の育成など文化芸術をテーマとしたまちづくりの推進

イメージ図

